

やちょうの会・山口支部報告（第99の山登頂記）

9月8日（日）、前日午後からの雨も明け方には上がり、予定通り、地元山登りの会の行事で、山口県東部（岩国市）・広島県境の**羅漢山（標高1109M）**に登ってきました。

当日の集合が、今回も7：30と少し早目だったので、これに合わせ少し早目（5時半）の起床と犬の散歩になる。順路廻りの田圃の稲も実がしっかり付いて、諺にあるように大きく頭を垂れ、刈り取りの時期ももうすぐ。

公民館に、今回の参加者6人（男4人、女2人）が揃い、リーダーの車で出発。途中、結構激しい雨に合いながら、中国道を東へひた走り。高速を降りて、脇に棚田や杉林を見ながら、またひとしきり走り、羅漢山青少年村へ到着（10時頃）。雨はすっかり止んでいました。

羅漢山は、その山容が羅漢さんに似ていてその名が付いた由。登山口付近には、キャンプ場、オートキャンプ場などがあり、「らかん高原管理センター」もあったが、オートキャンプ場に一組の利用者がいるだけで、管理センターにも人影がありません。私達と同じ羅漢山登山者らしい人や車は無く貸切。案内板には、少し離れてスキー場もあった。

当方の高度計によると、ここでの標高は810M程度。登山口がいまいち不明確なれど、廻りを徘徊していたら、「羅漢山はあっちの標識（頂上までの歩行距離、1.5KM）」があった。

それぞれがそれなりの準備をして、10時半頃、使用前の写真撮影後、登山開始。キャンプ場の脇を抜け、しっかりと整備されている道を登って行く。雨で道は少々ぬかるんでいる。花の知識は少ないが、道脇に少し赤みの強いネジ花（ねじり花）が可愛く咲いていた。杉林の間を縫って行く。傾斜は緩やかで、この会の特徴の遅いペースも合わさって、息が弾むことは無い。

20分も登ると、木段が付きの道になった。段差が気に食わないので、全員それを避け、木段の脇を登って行く。淡々と進み、登山口から20分程の位置に「頂上まで0.9KM」の標識があった。高い杉の木が道の両脇にずっと続いており、お陰で道は日陰、しかもややひんやりとした風が吹いていて、爽やかな登山。中国自然歩道経路の標識もあった。

30分ほどで、頂上まで0.8KMの位置に来た。足元は、落ち葉が前日（又は今朝）の雨水を含んでいてふんわり&じゅくじゅくのクッション。もちろん登山靴で水の浸入もなく、足元は気持ち良い。

更に、10分ほど登ると、「左；小羅漢山、右；羅漢山頂」の標識のある尾根鞍部に到着。左へ道を取り、寄り道の小羅漢山へ。人の背丈ほどもあるクマ笹が道の両脇から覆いかぶさるようになっており、手で避けるようにして登る。僅かで、小羅漢山頂上に到着。展望小屋（台。標高1040M）に上る。小屋は10段ほどの階段が付いており、登ると、

は青空も覗いており、連なる山々が一望できた。地図を広げて、北に位置する寂地山らしい山も確認。

ここを辞し、先ほどの尾根鞍部に戻り、羅漢山頂上（距離450M）を目指す。途中、以前の山焼き時に焼け残った杉（不知火杉）を愛で、頂上へは12時少し前に到着。こちらにも展望小屋があり階段を上る。近くにはレーダー雨量観測用のドームもあった。周囲の山々のほか、宮島方面の瀬戸内海も見えた（※075）。空も雲と青空がマッチして一服の絵（※078）。

ここ展望台小屋で昼食会となる。Kさんの奥さん手製の絶品（漬物）を肴に、ビールで乾杯。ややあって、他からデザートのお菓子類の差入れを頂く。当方は数少ないお菓子メニューの夏ミカン皮の砂糖焼きを提供。Tさんちでのこのお菓子作り時の失敗談を聴く。今朝決まった2020年東京オリンピック開催の話など、しばし話も盛り上がり、小1時間経過。

近くの三角点脇の頂上標識を取り込んで全員の記念撮影後、下山開始。途中、逆光に黒い幹から垂れる、まだ青々したもみじをパチリ。仲間の姿も少し写し込んで・・・（※082）。淡々と下る。距離もそれ程無く、下りで、1時間程で駐車場に到着（14時少し前）。今回登山は全コース貸切かと思っていたが、途中、1+7+1の人達と出会った。駐車場にはそれらの人達のものと思われる車が3台程停まっていた。

最高齢のリーダーの運転に身を任せ、皆それぞれ居眠りを挟みながら、16時半頃、公民館に到着。

木陰の整備された道をゆっくり登り、難所もなく、距離も少な目の爽やかな登山でした。この日の歩行数8169歩。

山口／古賀

